

特集

災害に際して私たちにできること

香美市内の自主防災組織の現状

今年4月1日現在で67組織(土佐山田町62・香北町4・物部町1)が設立されています。

組織率 加入世帯数/管内世帯数 33.0%

防災倉庫や資機材の整備、防災マップの作成、防災訓練などが実施されています。

香美市の取り組み

設立支援

香美市では、近い将来発生が予想されている南海地震に備え、地域の防災力向上や市内全域での自主防災組織設立に向けて、地域の集まりなどで説明会を開催しています。

設立に向けての説明会



香北町猪野々地区

補助制度

組織設立後に、資機材の購入や収納施設の設置費用、また、各種訓練への補助制度があります。詳細については、防災対策課にお問い合わせください。

組織・育成

組織結成後、地区を巡回し、危険箇所・避難経路・消火栓の設置場所等を入れた地図を作成し、加入世帯に配布します。

防災マップ作り



香北町朴ノ木地区

活動内容

防災訓練では、市消防本部・消防署の協力により、安否や被害の情報を伝達・確認する訓練をはじめ、負傷者の救出・搬送・応急手当等への対処方法や訓練用の水消火器を使った初期消火訓練等、実際に体や身の回りの道具を使った、実践的な訓練が行われています。

訓練



土佐山田町西町3丁目地区

また、先進的な取り組みとして小島防災会では、昼間の訓練に加え、夜間の地震発生を想定し、集合訓練をはじめ、悪条件の中の難しい課題に取り組んでいます。

夜間訓練



土佐山田町小島地区

物部川洪水時は避難情報をお知らせします

香美市と永瀬ダムからのお知らせ

ダム管理事務所では、ダムから放流を行う際、左図の警報局のサイレンを鳴らし、また警報車により広報巡回をして、河川増水の危険をお知らせしています。

昨年6月1日から、このダム警報局を利用し、物部川洪水時の避難情報を放送しています。

(1) 放送する警報局

神母木警報局

八王子警報局

戸板島警報局

(2) 放送の音達範囲

警報局から河川上下流向きに約200m。

(音声放送は、サイレンより聞こえる範囲が狭い)

自主防災組織をたちあげよう!

《自主防災組織の必要性とは》

大地震が起こった場合、被害を最小限にとどめるよう防災関係機関は総力をあげて防災活動に取り組みます。しかし、地震による被害は、火災をはじめ、道路の寸断、建物などの被害、断水や電力供給の停止など、関係機関のみの活動では、十分に対処できないことが考えられます。

そこで、それぞれの家庭での日頃の備えや、いざというときの心構えが必要になってきますが、それに加えて、地域ぐるみの防災活動で皆さんがお互いに協力しあい、地域全体の安全を守る必要があります。

《自主防災組織とは》

生命や財産を守るためには、皆さん自身が災害の初期段階で適切な防災活動を行うことが大変重要です。また、各自が勝手に行動していたのではとても大災害には立ち向かえません。

隣近所など地域の皆さんが団結し、組織的に活動することによって、最大の効果が発揮できるのです。

自主防災組織とは、「自分たちのまちは自分たちで守る」という、地域住民の自衛意識と連帯感に基づいて結成される防災組織です。

《組織の設立・運営》

組織は、基本的に一つの自治会単位で立ち上げていますが、世帯数が少ない自治会では、複数の自治会合同で立ち上げることも可能です。

運営については、下記のとおりになります。

1. 規約により、次のような役員が置かれます。

会 長：防災会を代表し、災害発生時には応急対策の指揮者

副会長：会長の補佐など

班 長：情報・避難誘導などの班のリーダー

会 計：防災会の会計事務

監 事：会計を監査

役職数やその人数については、世帯数や年齢構成によって地域（組織）ごとに異なります。

2. 活動内容 災害時の活動内容を記載した防災計画に基づき活動を実施します。

3. 運営資金 それぞれの組織で調達します。

【問い合わせ先】 防災対策課 ☎53-1061

